

# 「近現代のアジアと日本」(2011年度前期)の試験について

2011.7.26 久保

1. テキスト久保他共著『現代中国の歴史』(東京大学出版会、2008年)と自筆ノートの持ち込み可。

2. 近年、出題した主な試験問題は下記のとおり。

## 【A問題群】

2007年度

- ・戦犯を裁いた東京裁判が日本人の戦争認識に対して持った意味、並びにその問題点について述べなさい(150字程度)。
- ・下記の条約が調印された歴史的背景とその意味について述べなさい(100字程度)。

戦争放棄に関する条約 1928年8月27日

第1条 締約国は、国際紛争解決のために戦争に訴えることを非難し、かつ、その相互の関係において国家政策の手段としての戦争を放棄することを、その各々の人民の名において厳粛に宣言する。

第2条 締約国は、相互間に発生する紛争または衝突の処理または解決を、その性質または原因の如何を問わず、平和的手段以外で求めないことを約束する。

2008年度

- ・戦前に靖国神社が設立された経緯と目的、並びにその管理体制に関する史実を記しなさい(100字程度)。

2009年度

- ・日本の戦後補償について、他のアジア地域の人々から批判が提起される理由について、講義の内容を参照しながら、自分の見方を簡潔に記しなさい(100字程度)。

2010年度

- ・日本の戦後賠償は相手国によって異なる内容になった。インドネシアに対する賠償と中国に対する賠償は、どのように異なっていたか。またそのような相違が生じた歴史的な背景は何か。簡潔に説明しなさい(100字程度)。

- ・日本人の中国認識は19世紀後半から20世紀初めにかけて大きく転換した。その転換の内容と転換が生じた歴史的要因について簡潔に説明しなさい(100字程度)。

## 【B問題群】

2008年度

- ・盧溝橋事件が日中全面戦争に拡大した重要な原因について、講義の内容や参考書の叙述を参照しながら、自分の見方を簡潔に記しなさい(100字程度)。

2009年度

- ・中華人民共和国の国歌は、元来、映画の挿入歌であった。映画挿入歌として作詞作曲された時代背景と、それが14年後に国歌に採用された理由について、講義の内容や参考書の叙述を参照しながら自分の見方を簡潔に記しなさい(100字程度)。
- ・1950年代初めに緊密な同盟関係にあった中国とソ連は、1960年代になると厳しい対立関係に陥った。その主な理由について、講義の内容や参考書の叙述を参照しながら、自分の見方を簡潔に記しなさい(100字程度)。

2010年度

- ・1930年代初めの国民党政権の政治支配システムと1950年代半ばの共産党政権の政治支配システムの間には、どのような共通性と異質性が存在したか。また1930年代初めの国民党政権の政治システムは、その後どのように変化し、どのような歴史的意味を持つようになったか。簡潔に説明しなさい(3～4行、100字程度)。

## 3. 今年の出題予定

- ・A、B各問題群の中から、そのいずれかに類似した1題を出題。計2題。
- ・下記の6問の中から1題を出題。テキストとノートを見れば、準備できるはずです。
  - (1) 中華民国成立初期の議会政治が行き詰まった理由
  - (2) 中国統一化論争で矢内原が主張の根拠とした国民党政権の施策
  - (3) 国民党政権が日本の侵略に抵抗するために動員した多様な要素
  - (4) 1960年代に中国とソ連の対立が深まった理由
  - (5) 1989年の民主化運動の背景
  - (6) 台湾が1950年代から60年代にかけて発展した理由
- ・以上あわせて3題の問題を出題します。